

授業科目 体カトレーニング論実習 II

【担当教員名】 柵木 聖也		対象学年	3	対象学科	スポーツ
		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：GI0】 基本的なトレーニング理論に対する理解を基盤として、より実践的な体カトレーニングの実施方法、および部位別の個々のスポーツ傷害に特化したアスレティックリハビリテーション実施方法を学ぶ					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 上肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。 2. 体幹のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。 3. 下肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。 4. アスレティックリハビリテーションの中で用いられる体カトレーニング的な手法について学ぶ。 5. 各種のスポーツ傷害を受傷した選手に対する一連のアスレティックリハビリテーションをシミュレーションする。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	上肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（1）肩関節前方脱臼				
2	上肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（2）投球傷害肩				
3	上肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（3）肘 MCL 損傷、上腕骨内外側上顆炎				
4	体幹のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（1）頸椎捻挫				
5	体幹のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（2）腰部疾患				
6	下肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（1）足関節捻挫				
7	下肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（2）膝 MCL・ACL・MM・LM 損傷				
8	下肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（3）大腿伸筋・屈筋群の肉離れ				
9	下肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（4）鵠足炎、膝蓋大腿関節障害、タナ障害等				
10	下肢のスポーツ傷害とアスレティックリハビリテーション（5）扁平足障害、脛骨過労性骨障害				
11	アスレティックリハビリテーションのケーススタディ				
12	アスレティックリハビリテーションのシミュレーション1				
13	アスレティックリハビリテーションのシミュレーション2				
14	アスレティックリハビリテーションのシミュレーション3				
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		公認アスレティックトレーナー 専（財）日本体育協会 門科目テキスト1～9		（財）日本体育協会	
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 筆記試験を実施する。		【履修上の留意点】 基本的には、日体協公認 AT 資格取得希望者向けの開講科目であり、同資格取得希望者は「体カトレーニング論実習Ⅰ」とセットで受講すること。なお、「体カトレーニング論」の単位取得が履修前年度までに完了していることを履修条件とする。			